

平成 25 年度 東京都内湾水生生物調査 8 月鳥類調査 速報

●実施状況

平成 25 年 8 月 19 日に鳥類調査を実施した。天気は晴、気温 31.2~33.8℃、東南東~南の風、風速 1.3~6.2m/s であった。当日は中潮で、潮位は 9 時 37 分 干潮(28cm)、16 時 35 分 満潮(195cm)であった(気象庁東京検潮所)。各地点の状況を下表に示す。

	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻
作業時刻	11:05-12:15	13:10-13:50	9:25-10:00
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	31.2	33.8	32.6
風向	南	東南東	南南東
風速(m)	6.2	1.3	2.5
備考	干潟が広く干出し、水溜りが多くできていた。	砂浜を散策する人、水遊びする人が多く見られた(53人)。磯浜で釣りをする人が見られた(3人)。	干潟が広く干出ししていた。干潟の周りに船が3隻おり、貝類を採っていた。

●主な出現種等

	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻
数が多かった鳥類上位2種	ウミネコ(684羽) カワウ(607羽)	カワウ(142羽) アオサギ(22羽) ウミネコ(22羽)	カワウ(766羽) ウミネコ(112羽)
その他の鳥類	カルガモ、スズガモ、カンムリカイツブリ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリ、ミヤコドリ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、オオセグロカモメ	カルガモ、ダイサギ、コサギ、キアシシギ、イソシギ、オオセグロカモメ	カルガモ、オナガガモ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ムナグロ、メダイチドリ、ソリハシシギ、イソシギ、トウネン、ユリカモメ、オオセグロカモメ、コアジサシ
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟の汀線際にはカワウ、ウミネコが多数休息。</li> <li>波打ち際でミヤコドリが採餌。</li> <li>干潟では、サギ類、カルガモ、シロチドリやダイシャクシギなどシギ・チドリ類が採餌。</li> <li>ヨシ原の日陰でサギ類が休息。</li> <li>重要種として、12種を確認(スズガモ、カンムリカイツブリ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリ、ミヤコドリ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第六台場、鳥の島のカワウの巣は利用されていない。</li> <li>カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギの幼鳥が見られ、成鳥と共に、樹上、護岸の水際などで休息。</li> <li>消波ブロックでキアシシギが休息。</li> <li>ウミネコ、オオセグロカモメが護岸などで休息。</li> <li>重要種として、4種を確認(ダイサギ、コサギ、キアシシギ、イソシギ)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟ではカワウ700羽以上が休息。</li> <li>カルガモ、サギ類、メダイチドリ等のシギ・チドリ類が干潟で採餌。</li> <li>ユリカモメ、ウミネコ、オオセグロカモメが干潟で休息。</li> <li>コアジサシが浅瀬で採餌。</li> <li>重要種として、8種を確認(ダイサギ、コサギ、ムナグロ、メダイチドリ、ソリハシシギ、イソシギ、トウネン、コアジサシ)。</li> </ul>

●出現種と個体数

No.	目名	科名	種名	調査時期 5月			調査時期 6月			調査時期 8月			重要種 選定基準			
				葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	文化財保護法	種の保存法	環境省RL 2012鳥類	東京都RL 2010(区)
1	カモ	カモ	カルガモ	5	7	8	9	11	8	17	1	15				
2			オナガガモ									1				
3			スズガモ	4			6			8						*
			カルガモ雑種**				1									
4	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	3			3			1						*
5	カツオドリ	ウ	カワウ	102	666	84	210	1131	259	607	142	766				
6	ペリカン	サギ	ゴイサギ		1			2								
7			アオサギ	8	35	1	7	32	4	25	22	5				
8			ダイサギ	1	6			3	1	18	5	8				VU
9			チュウサギ							2					NT	VU
10			コサギ	2	4	1	2	47	1	7	11	7				VU
11	チドリ	チドリ	ムナグロ									1				VU
12			ダイゼン							2						VU
13			コチドリ	1		1			2							VU
14			シロチドリ	8		5	4		2	29					VU	VU
15			メダイチドリ							5		24				NT
16		ミヤコドリ	ミヤコドリ	26						9						EN
17		シギ	オオヅリハシシギ	1						1					VU	EN
18			チュウシャクシギ	2		1										VU
19			ダイシャクシギ	1						1						CR
20			ホウロクシギ							1					VU	CR
21			キアシシギ		5	1					4					VU
22			ソリハシシギ									2				VU
23			イソシギ					2			1	4				VU
24			キョウジョシギ		4	1										VU
25			トウネン	1								1				NT
26		カモメ	ユリカモメ	2	2	28						2				
27			ウミネコ		2	1	17		2	684	22	112				
28			セグロカモメ			1										
29			オオセグロカモメ	2		1				40	2	1				
			大型カモメ**	1												
30			コアジサシ	42			3		13			2		国際	VU	EN
31			アジサシ	378												
32	タカ	ミサゴ	ミサゴ	1											NT	EN
33	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ					1								
確認種数	7目	10科	35種	19種*	10種	14種	9種**	7種	9種	17種	9種	15種	0種	1種	6種	22種
合計個体数				591	732	136	262	1227	292	1457	210	951				

和名、種の配列は、日本鳥学会(目録編集委員会)(編)(2012)『日本鳥類目録改訂第7版』日本鳥学会に準拠した。

※:大型カモメに分類されるセグロカモメ、オオセグロカモメが確認されているので「大型カモメ」は確認種数に数えない。

※※:カルガモとオナガガモの雑種と思われる個体。両種の特徴を持つ。確認種数には数えない。

種の保存法 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において指定されたもの

国際:国際希少野生動物

環境省RL 環境省(2012)報道発表資料「第4次レッドリストの公表について(お知らせ)」において選定されたもの

VU:絶滅危惧II類 絶滅の危険が増大している種

NT:絶滅危惧II類 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

東京都RL 東京都環境局(2010)「東京都の保護上重要な野生生物種(地域名)」の区部において選定されたもの

CR:絶滅危惧IA類 ごく近い将来における野生での絶滅の危険が極めて高いもの

EN:絶滅危惧IB類 IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

VU:絶滅危惧II類 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの

NT:準絶滅危惧 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

\*:留意種 現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、留意が必要と考えられるもの

前回の調査(平成 25 年 6 月 10 日)と比べ、ウミネコ、オオセグロカモメの個体数が急増した(参考文献 1)。シギ・チドリ類の種数、個体数が共に増加し、北の繁殖地から南の越冬地への、秋の渡りの時期であると考えられる。

昨年度(平成 24 年 8 月 2 日)の調査と比較すると、カワウの個体数は少なかった(平成 24 年 8 月: 2479 羽、平成 25 年 8 月: 1515 羽)(参考文献 2)。調査地点を移動中に、貯木場の護岸などの人工構造物で休息するカワウを多数確認しており、調査地点以外の東京湾の様々な場所を利用していると考えられる。シギ・チドリ類について、昨年度よりも種数・個体数が多かった(平成 24 年 8 月: 6 種 62 個体、平成 25 年 8 月: 11 種 76 個体)。

葛西人工渚では、日差しが強い時間帯で気温が高いことから、ヨシの日陰で休息するサギ類が確認された。その中に、環境省レッドリストの重要種に該当するチュウサギが確認された。

お台場海浜公園の第六台場、鳥の島では、カワウの巣に幼鳥、成鳥の姿は見られなかった。カワウの繁殖活動は終了したと考えられる。第六台場のサギ類の雛、幼鳥が多く見られた場所でも姿は確認されなかった。鳥の島の樹上にダイサギ幼鳥 4 羽とコサギ幼鳥 4 羽の小集団が確認された。親鳥の給餌を待つ幼鳥たちと考えられる。この他にサギ類の繁殖活動は確認されず、この集団が今季最後のサギ類の繁殖集団と思われる。護岸の水際などで、アオサギ、コサギの幼鳥、カワウの幼鳥が確認された。

森ヶ崎の鼻では、頭部に夏羽の黒い羽が残るユリカモメ成鳥が確認された。カムチャツカ半島、ユーラシア大陸北部などで繁殖した個体が、越冬のために飛来し始めていると思われる。

森ヶ崎の鼻に隣接する水再生センターの施設屋上で、コアジサシの生息環境の保全・再生事業を行う「特定非営利活動法人リトルターン・プロジェクト」の web ページの情報によると、コアジサシの繁殖活動は続いており、昨年度よりも多く雛が観察されている。また、メダイチドリ、ムナグロの群れが休憩場として利用している事が確認されている(参考文献 3)。今回の調査で確認された干潟で採餌するメダイチドリ、ムナグロ、浅瀬で採餌するコアジサシは、水再生センターの施設屋上を利用している個体の一部である可能性が考えられる。



ヨシの日陰で休息するサギ類(葛西人工渚)  
アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギが休息していた。  
赤枠は重要種のチュウサギ。



キアシシギ(お台場海浜公園)  
消波ブロックで休息する。





ムナグロ(森ヶ崎の鼻)  
干潟で採餌する。チドリ科の一種。



ソリハシシギ(森ヶ崎の鼻)  
干潟で採餌する。  
くちばしは長く上に反り、足は黄色。



ユリカモメ(森ヶ崎の鼻)  
干潟に打ち上がったブイの上で休息、羽づくろい。  
頭部に黒い夏羽が残る。

#### 参照文献一覧

- 1 東京都環境局水環境課、平成 25 年度 東京都内湾水生生物調査 6 月鳥類調査 速報、[http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/water/tokyo\\_bay/attachement/%EF%BC%A8250610%E9%B3%A5%E9%A1%9E%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E9%80%9F%E5%A0%B1.pdf](http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/water/tokyo_bay/attachement/%EF%BC%A8250610%E9%B3%A5%E9%A1%9E%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E9%80%9F%E5%A0%B1.pdf)、(2013/8/26)
- 2 東京都環境局水環境課、平成 24 年度 東京都内湾水生生物調査 8 月鳥類調査 速報、[http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/water/tokyo\\_bay/attachement/H240802%E9%B3%A5%E9%A1%9E%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E9%80%9F%E5%A0%B1.pdf](http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/water/tokyo_bay/attachement/H240802%E9%B3%A5%E9%A1%9E%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E9%80%9F%E5%A0%B1.pdf)、(2013/8/26)
- 3 littletern、8 月 17 日(土) 第 14 回営巣地調査、NPO 法人 リトルターン・プロジェクト、2013/8/17、<http://d.hatena.ne.jp/littletern/20130817/1376752981>、(2013/8/26)